

あ と が き

猛暑もおさまり、今年もスポーツ、思索の秋となりました。今月は木村幸三郎名誉教授より最終講義、原著論文8編、臨床報告2例、医学プラザ、研究会報告2件を、そして巻頭言として京都府立医科大学・学長、栗山欣弥先生より「医療のなかの人間学」をいただきました。明治以降、西洋医学を取り入れてきたわが国の医療は、心の領域を多少犠牲にし、医学知識・技術を導入してきたように思われます。さらに、科学技術の進歩のめざましい今日、ややもすると“doctor”中心の医療に傾きやすい中であっては、知識・技術の修得にあたって、広い意味での人間学を身につけることが重要であるという、栗山先生のご提言はまことに理にかなったものと思われま

す。我が大学でも、幅広い人間性・個性の確立をめざして、「人間を考える」「グループ別研究」など、新たなカリキュラムが発足致しました。今後に一層の期待をしたいと思います。

一方、研究の分野においても、論文数は年々増加しているが、本当の意味での臨床に役立つ研究が少ないという指摘が、名古屋の医学会総会においてなされ、仕事の質が問われる時代になってきました。

臨床、研究、そして教育の場において、まさに新たな“改革”が求められているように思います。思索の秋、大いに議論いたしましょう。

(水口純一郎 記)

幹事会(要旨)(平成7年9月)

- 第136回医学会総会のシンポジウムタイトルは「災害時における大病院の対応を考える」に決定した。
特別講演：2件、シンポジウム口演者：8人、当番教室：生理学第二講座、精神医学講座
- 編集状況の報告並びに編集について討議した。54巻1号：受付中
- 東京医科大学医学会会則の一部改正について審議し、医学会の設置場所と施行細則の役員等選出規定の一部を改正することとした。
- 特別講演の実施方法について審議したが、従来通りの方法で医学会総会の中で行うこととした。

編集委員会

渋谷 健(会長)
伊東 洋(副会長)
三浦 幸雄()
岩根 久夫(庶務幹事)
小柳 泰久()
内野 善生(編集幹事)
高山 雅臣()
登坂 恒夫(会計幹事)
友田 燐夫()
阿部 公彦(委員)
一色 淳()
白井 正彦()
加藤 治文()
斎藤 利彦()
J. Patrick Barron()
林 徹()
福武 勝幸()
星加 明德()
松岡 健()
水口 純一郎()
水野 文雄()
外山 圭助(監事)
藤波 襄二()

平成7年10月20日 印刷

平成7年11月1日 発行

東京医科大学雑誌 第53巻 第6号

発行者 渋谷 健

発行所 東京医科大学医学会

(東京医科大学総務部総務課内)

東京都新宿区新宿6-1-1

TEL (3351) 6141 (代)

印刷所 共立印刷株式会社

東京都中央区新川2-23-9

TEL (3551) 9891 (代)